

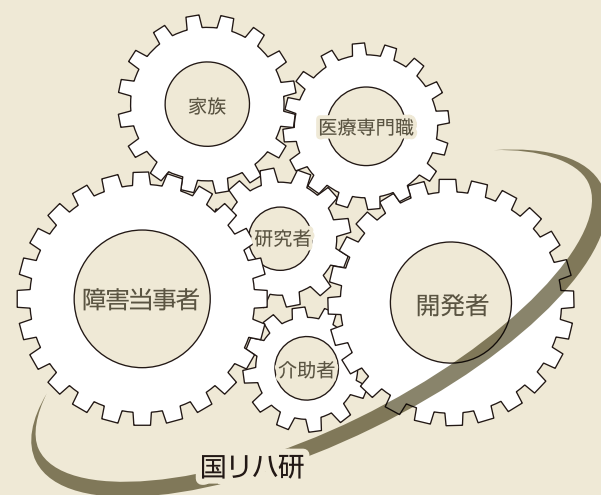


国立障害者リハビリテーションセンター研究所



排泄問題 ワークショップ 2012

排泄問題 ワークショップ とは・・・



～当事者参加型の課題解決を目指して～

排泄問題ワークショップは、障害者の排泄に関するニーズを抽出し、その解決策を提案することを目的として、2011年度から国立障害者リハビリテーションセンター研究所(国リハ研)にて開催されてきました。障害者の自立した生活を実現するために、排泄は極めて重要な問題です。しかし、その重要性はあまり知られておらず、排泄に関わる支援技術の開発も、他の福祉用具と比べると十分ではありません。そこで、障害当事者が自らのニーズを開発者や研究者に語り、共に機器開発に参加する場をつくることで、排泄に関する満たされない思いを、支援機器という形に具現化することを目指しました。

本ワークショップでは、障害当事者・医療専門職・企業開発者・研究者といった様々な立場の参加者が直接意見を交わし、合意を形成することに重点を置きました。こういった参加型のプロセスが、福祉機器の開発や障害者を取り巻く課題の解決にどの程度有効かを検証し、方法論を確立することが、この排泄問題ワークショップのもう一つの目的です。今後も、本ワークショップを継続的に実施していくことで、国リハ研は障害者と共に歩み、自立した生活と社会への参加を促進することを目指していきます。

ワークショップ 2011 ～排泄問題を解決する機器の未来像～

2011年度のワークショップでは、障害当事者と研究開発者が同じテーブルで議論し、ニーズとシーズ(技術の種)を伝え合いながら、排泄に関する支援技術の未来像を描くことを目指しました。その結果、「失禁時の臭い対策」という大きなニーズが存在することが見出されました。年に2～3回あるかないかの失禁への不安が障害者の生活に様々な制約をもたらしている。こういった現状を打破するために描かれた機器の未来像が、下記の3つのイラストです。



排泄問題の抽出



開発者との直接対話



におい封じ込めエプロン



型取りおむつ



におい分解クッション

ワークショップ 2012

～参加型の開発プロセスで未来像を実現～

排泄問題ワークショップ 2012 では、前年度に描かれた機器の未来像を実現するための開発型ワークショップである「開発会議」と、技術にとどまらない広範な問題を議論する「井戸端会議」を並行して開催しました。開発会議では、企業の開発者と障害当事者が、機器のコンセプトデザインから試作品の評価までを協働して実施することで、ニーズを過不足なく反映した支援機器の実現を目指しました。井戸端会議では、排泄に関する様々なニーズや問題意識を参加者間で共有し、理想の社会像に向けたロードマップを作成しました。また、来年度(2013年度)のワークショップに向けて、ロードマップの一部を実行に移すためのアクションプランを策定しました。

開発会議



開発テーマごとに3つのグループに分かれ、企業の開発者と障害当事者が直接対話しながら機器のコンセプトを決定しました。最終的には試作品を試用し、提案したコンセプトの実現可能性を検討しました。

- A グループ 車いす上失禁対策(手が使える)
- B グループ 車いす上失禁対策(手が使えない)
- C グループ ベッド上排便時のにおい対策

開発会議のフロー

- Day. 1 解決すべき問題の整理
- Day. 2 要求機能と制約条件の抽出
- Day. 3 試作品の製作と検討
- Day. 4 開発に向けての課題の整理

井戸端会議



排泄に関する問題を、行政・社会システムまで含めた広い視野から議論し、理想の社会像とそれを実現するためのロードマップを作成しました。さらに、ロードマップの一部をアクションプランとして一年分の計画に展開し、来年度のワークショップの方向性を決定しました。

井戸端会議のフロー

- Day. 1 問題意識の共有
- Day. 2 ロードマップの作成
- Day. 3 アクションプランの策定

開発会議の概要と結果

車いす上での失禁対策とベッド上排便の臭い対策について、3グループに分かれそれぞれ4回ずつワークショップを開催しました。問題意識の共有から始まったセッションは、試作品づくりへと進むグループもあり、それぞれのグループ参加者の特徴が発揮されました。



A グループ

車いす上での失禁対策
(手が使える場合)

参加した
当事者 手動車椅子ユーザ

Keyword : お洒落

Day 1

解決すべき問題の整理

ひざ掛け付クッションの検討



失禁時のにおい拡散を防ぐひざ掛けをクッションと一体化。

2012.11/30

Day 2

要求機能と制約条件の抽出

市販おむつの検討

薄型おむつ & パッドいろいろ



スキニージーンズなど、お洒落な普段着にも影響しない薄型おむつを検証。

2012.12/7

Day 3

試作品の製作と検討

あくなき素材の探求



コンパクトに
たためる餅の
ひざかけ

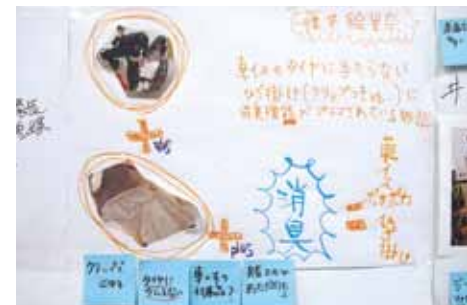
見た目重視、におい対策にも効果のある素材・形状のさらなる検討。

2012.12/20

Day 4

開発に向けての課題の整理

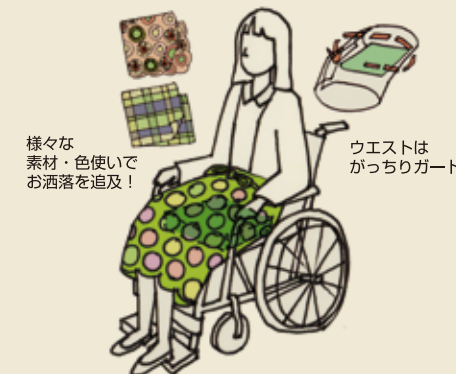
デザインイメージの共有



様々な素材写真を用いて「あったらいいな」のにおい対策製品を各人が提案。

2013.3/1

におい封じ込めエプロン



B グループ

車いす上での失禁対策
(手が使えない場合)

参加した
当事者 電動車椅子ユーザ

Keyword : 褥瘡対策

失禁対策 < 褥瘡への不安

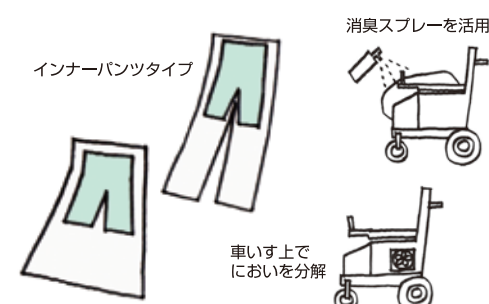


再検討となった
消臭機能付き
クッション

失禁対策が褥瘡の原因になってはならない。クッションの改造は却下。

2012.11/27

試作品イメージの決定



消臭スプレーを活用

車いす上で
においを分解

便失禁時にも外漏れしない、ウェットスーツ素材を使ったインナーパンツ。

2012.12/7

インナーパンツの試作品検討



インナーパンツの試作品登場。裾や腰部を絞ることで便漏れを防ぐ機構。

2012.12/25

機能性生地への提言



インナーパンツに使用できそうな、蒸れずに漏れない生地素材について提言。

2013.2/25

インナーパンツ



C グループ

ベッド上排便時の
におい対策

参加した
当事者 電動車椅子ユーザ
+ 国リハ病院看護師

Keyword :
スピード・手軽さ

病院での排便介助方法の把握



消臭剤ふりかけ
粉末タイプ

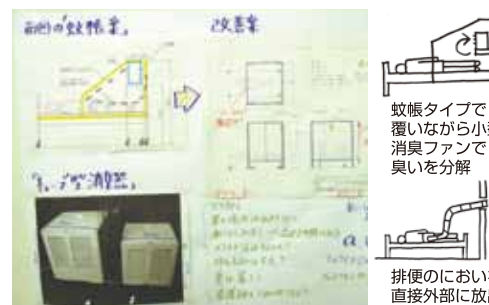
おしり密着
ビニールタイプ

手袋付ビニール

ベッド上排便時の看護師の行動・手法を学び、便臭軽減への意識を共有。

2012.11/15

看護師の時短ニーズの再確認



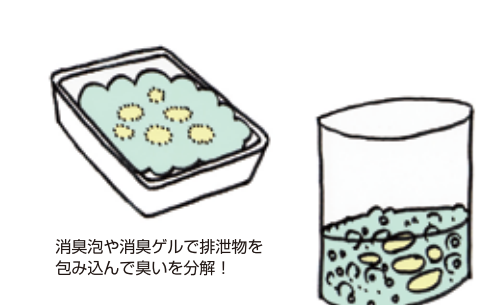
蚊帳タイプで
覆いながら小型
消臭ファンで
臭いを分解

排便のにおいを
直接外部に放出！

超多忙な看護現場の実情が判明。準備に時間がかかってはいけな。

2012.11/30

消臭ゲル試作品の効果を体験



消臭泡や消臭ゲルで排泄物を
包み込んで臭いを分解！

便に消臭ゲルをかけることで、においを包み込んで逃さない。準備も簡単。

2012.12/18

臨床評価に向けた話し合い



消臭ゲルの臨床評価が倫理審査を通過!! 評価手法について検討。

2013.3/18

消臭ゲル



井戸端会議の概要と結果

3回のワークショップを通して、排泄をとりまく課題を共有し、理想の社会づくりに向けたロードマップと、次年度の活動指針であるアクションプランを作成しました。



Day
1

排泄をとりまく課題の共有

2013.1/20

排泄に関する問題意識を出し合い、より良い社会づくりに向けて解決すべき課題を整理しました。



課題抽出のためのブレスト



課題の共有と深掘り



▶▶▶ ロードマップの概要

外出情報

～障害者の外出に必要な情報を入手しやすく～

- ・トイレ情報などの収集にあたり、障害者が必要な項目を整理
- ・商業Webサイトとの連携など、効果的な情報発信の仕組み作り

災害対策

～障害者のための災害時ガイドラインの作成～

- ・障害者が平時にやっておくべき準備を整理
- ・避難所の多目的トイレやヘルパー体制などの整備推進

トイレ

～いつでも不安なく使える多目的トイレの実現～

- ・使用しやすいトイレのための企画作成と設計者の育成
- ・適切な利用を促進するための仕組み作り

理解促進

～障害者への理解を促進する教育のあり方～

- ・障害者の状況を広く理解してもらうことで社会を変える
- ・教育機関と障害者が協力して教育体制を構築

Day
2

ロードマップの作成

2013.2/3

多岐にわたる課題をテーマごとに分類し、目指すべき社会像を共有した上で、実現までの行程を議論しました。



提案された課題を、環境整備、情報共有・理解、技術開発、災害時対策、医療・介護、制度・基準づくりなどのテーマに分類



多岐にわたるロードマップが完成

Day
3

アクションプランの策定

2013.3/10

千里の道も 一歩から。ロードマップの一部を投票で選び、次年度一年間の活動指針を議論しました。



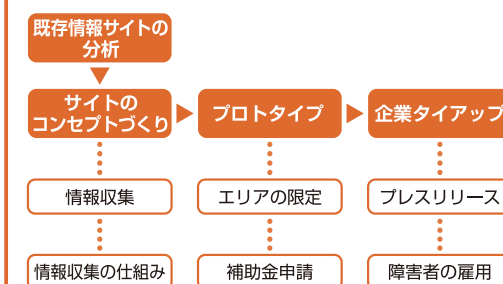
前回出されたロードマップを見直し



実際に取り組んでみたい項目に投票

▶▶▶ 次年度に向けたアクションプラン

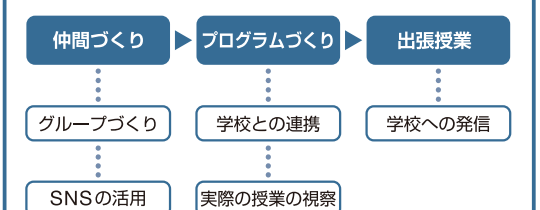
外出に必要な情報サイトの構築



災害時の対策と平時の準備



車椅子ユーザと交流する体験授業



ワークショップ参加者



被験者や評価モニターという言葉が示すように、これまでの福祉機器開発において、障害者は与えられたものを評価するだけの、極めて受け身な存在でした。機器のコンセプトが決まり、機能が決まり、形状まで決まった状態で、「ご意見を!」と言われることの滑稽さに、開発者はなかなか気づかないのかも知れません。

排泄問題ワークショップ 2012 では、障害者は「開発パートナー」として、開発者と対等に議論しながら、開発機器に関する様々な事柄の決定に参加しました。決定には責任が伴います。できたものは必ず自分で使えるものでなければならない、というプレッシャーは、参加者から妥協のない要求を引き出しました。一方で、開発者は、実際のユーザから直接意見を聞き、身体や生活のありのままの状況を把握することで、難しい要求にも納得しながら機器の試作を進められました。

開発会議と併催した井戸端会議でも、理想の社会像を実現するための次の一歩が、アクションプランとしてまとめられました。他人任せのロードマップも社会や技術の理想像を気兼ねなく示す上で重要ですが、自身が主語になる計画を立てることで、より確かな実感を持って未来を見据えることができました。

排泄問題ワークショップは、2013 年度も継続して開催予定です。たくさんの試作品を完成まで導き、アクションプランを実行に移すために、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ: **国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部**

〒359-8555 埼玉県所沢市並木 4-1
E-mail: suzurikawa-jun@rehab.go.jp

TEL: 04-2995-3100 (直通内線: 7287) / FAX: 04-2995-3132
URL: http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/haisetsu_ws/index.html

本ワークショップは、右記の研究費によって運営されています。

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 H24年度 間接経費を活用した研究
研究課題: 「参加型デザインを活用した支援機器の試作・評価手法の開発」 研究代表者: 硯川 潤